

福知山道路と沿道地域の 活性化の検討について

田村 嘉和¹・平野 剛²

^{1,2}近畿地方整備局 福知山河川国道事務所 調査第二課 (〒620-0875京都府福知山市字堀小字今岡2459-14)

福知山河川国道事務所では、福知山市内の交通混雑を緩和し、快適で安全な歩行空間の確保、地域の活性化を図ることを目的として国道9号福知山道路の事業を進めている。一方、福知山市では、地域のまちづくりと連携を図ったり、福知山道路を含めた観光周遊ルートなど、地域の活性化に資する方策を検討するため、「国道9号福知山道路地域活性化委員会」を設置している。本研究はその委員会の検討内容を紹介すると共に委員会での福知山河川国道事務所の取り組み状況等について報告するものである。

キーワード 地域活性化, まちづくり, 委員会

1. はじめに

国道9号福知山道路は、福知山市内の交通混雑を緩和し、快適で安全な歩行空間の確保、地域の活性化を図ることを目的として計画された延長5.8kmの道路である。

福知山道路では、地域のまちづくりと連携を図った道路構造の検討、福知山道路を含めた観光周遊ルートなど地域の活性化に資する方策を検討し、事業に反映させながら整備を進めている。

本研究は、福知山市が主催している「国道9号福知山道路地域活性化委員会」における福知山道路を機軸とした沿道地域の活性化に向けた検討内容を紹介すると共に委員会での福知山河川国道事務所の取り組み状況等について報告を行うものである。

2. 福知山市の概要

福知山市は、京都府北部の丹波地方に位置し、京都市から約60km、大阪市から約70kmの距離にあり、北近畿の交通の要衝となっている。とりわけ、国道9号は、福知山市内を東西に横断し、舞鶴若狭自動車道と接続し、京阪神地域との連携を強化する等、広域的な幹線道路の機能を有するとともに、地域内の生活道路として重要な役割を果たしている。

福知山市は、1579年に丹波を平定した明智光秀によって福知山城が築城されて以降、城下町として栄え、北近畿の商都として発展してきた。市の中心部に位置する福知山駅周辺は、古くからの商店街と、駅直近部の商業・業務地区を含む中心市街地を形成する地域であるが、広大な平面鉄道により市街地が南北に分断され、南北間の市街地の状況は著しく異なっていた。このような状況のもと、福知山駅周辺を『魅力ある北近畿の中核都市』の玄関口にふさわしい都心地区とするため、様々な施策が鋭意推し進められている。



図-1 福知山道路位置図



写真-1 整備が進む福知山駅周辺の状況

3. 福知山道路の概要

(1) 計画概要

国道9号は、福知山市内を東西に横断し、広域的な幹線道路の機能を有するとともに、地域内の生活道路として重要な役割を果たしているが、地域内交通等が集中する朝夕のラッシュ時を中心として渋滞が発生するほか、片側歩道や歩道幅員狭小区間が存在する等、歩行者・自転車にとって危険な状況であった。

このため、福知山道路は、福知山市内の交通混雑を緩和し、快適で安全な歩行空間の確保、地域の活性化を図ることを目的として計画された道路である。また、福知山駅周辺の土地区画整理事業等と一体となって、まちづくりの骨格を形成し、駅周辺施設へのアクセス向上や中心市街地活性化等を期待して整備を進めている。

表-1 福知山道路計画概要

区 間	福知山市長田野～新庄
延 長	5.8km
道路規格	第4種第1級
設計速度	60km/h
車 線 数	4車線
標準幅員	30.0～41.5m

(2) これまでの整備状況

福知山道路は、これまでに福知山工区の1.7km（東岡～北羽合）について完成4車線、土師工区の1.9kmについては暫定2車線（側道部）で供用済みである。

現在、長田野～東岡間を完成4車線で供用させるため、2014年度（平成26年度）を目標に整備を進めている。今年4月には、福知山大橋下り線側の完成に伴い、この区間の車線切替を行ったところである。

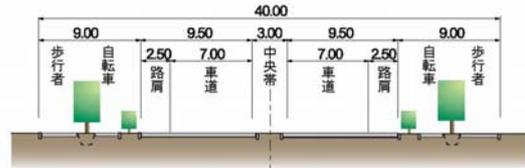


図-2 福知山工区の標準断面（完成供用済み）



写真-1 福知山工区の整備状況（完成供用済み）

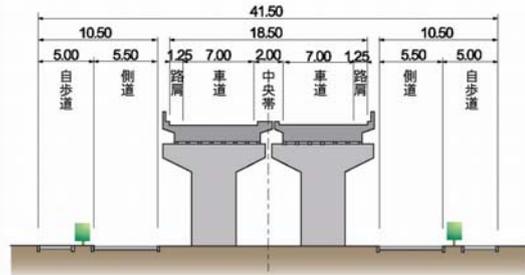


図-3 土師工区の標準断面（暫定供用中）



写真-2 土師工区の整備状況（暫定供用中）



図-4 福知山道路の整備状況

4. 地元自治体における地域活性化の取り組み

福知山市では、これまでに福知山駅付近連続立体交差事業による全面高架開業（平成21年2月）や福知山駅周辺土地区画整理事業、両事業が関係する街路事業等の都市基盤整備事業といった都市基盤の充実を図るとともに、恵まれた自然環境を生かしながら「北近畿をリードする創造性あふれるまち」として、北近畿の中核を担うまちづくりを進めている。

また、観光協会等が中心となって地元の魅力をPRすることを目的とした『福知山のうまいもの展』の開催、『うまいものスタンプラリー』を実施するほか、福知山マラソン等の様々なスポーツ大会を開催し、遠方から来る選手や関係者をもてなすプランとして『福知山スポーツ観光お便利マップ』を配布する等、ハード・ソフトの両面から取り組んでいる。

この他、JR山陰本線の高架化を契機として、南北間の連携強化を図るため北ルート・南ルートを設置した『まち中循環路線』の見直しにより、地域間幹線ルートを補完し、まちなかの移動を円滑にしたほか、レンタサイクルポートを設置し、来訪者の市内周遊性を高める等、地域活性化に向けた様々な施策を実行している。



図-5 地元自治体の取り組み（うまいものラリー）



写真-3 地元自治体の取り組み（レンタサイクル）

5. 地域活性化委員会の取り組み状況

(1) 福知山道路地域活性化委員会の概要

地元自治体がこうした地域活性化に向けたまちづくりの様々な施策を実行している一方で、これまで、これらまちづくりと道路事業が「連携を図る」といった議論があまりされてこなかった。

そこで、福知山市は、完成を2年後（平成26年度）に控えた福知山道路を機軸に、まちづくりと連携して地域活性化を推進するために『国道9号福知山道路地域活性化委員会』を2012年（平成24年）8月に設立した。国道9号福知山道路地域活性化委員会は、成美大学・滋野准教授を委員長に、地元自治体を含めた関係者で構成し、その下部組織として幹事会を設置している。

委員会及び幹事会の位置づけは以下に示すとおりであり平成24年度は委員会1回、幹事会1回を開催している。

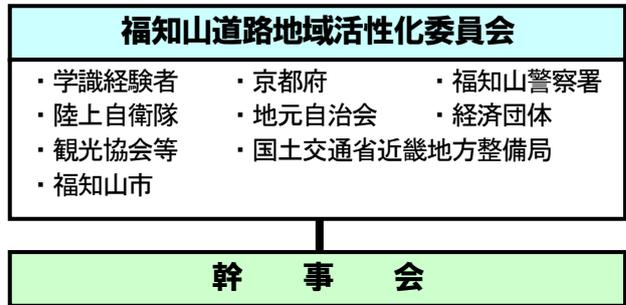


図-6 地域活性化委員会の組織体制

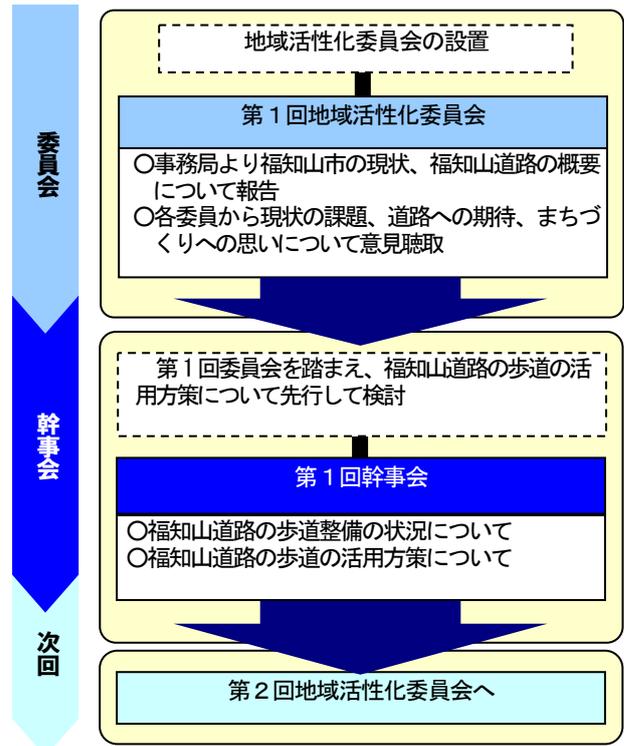


図-7 昨年度の地域活性化委員会の流れ

(2)第1回委員会の概要

第1回委員会は、2012年（平成24年）8月23日に開催された。第1回委員会では、福知山市の現状や福知山道路の概要を報告した後、各委員から現状における課題、道路への期待、まちづくりへの思いについて意見聴取を行った結果、今後検討すべき事項として以下の項目が抽出されている。

- 検討事項1：高架下利用のあり方について
- 検討事項2：広幅員歩道区間の活用方策について
- 検討事項3：工事中・供用前イベントの実施について
- 検討事項4：サイン計画のあり方について
- 検討事項5：福知山市街の駐車場のあり方について
- 検討事項6：福知山道路の景観について
- 検討事項7：情報発信のあり方について
- 検討事項8：福知山道路の安全対策について

(3)第1回幹事会の概要

第1回幹事会は、2013年（平成25年）2月25日に開催された。第1回幹事会では、第1回委員会において委員より聴取した意見のうち、福知山道路の「歩道の活用方策」について先行して検討している。

第1回幹事会では、福知山道路を活用したまちづくりを進めるため、利用特性や周辺地域の特徴を踏まえ、福知山道路を3つのゾーンに分類し、各ゾーンで実施する地域活性化メニューの方向性について議論している。活発な議論となるよう、具体的な事例を用いて施策メニューを紹介するとともに、福知山道路内で実現可能なものとして、「安全の視点」、「沿道を利用しやすい環境づくりの視点」から事務局としての歩道を活用した施策案を提案している。

また、完成イベント開催に向け、イベント内容についても協議している。



写真4 第1回幹事会の開催状況

6. これまでの取り組み状況

(1) ゾーン別のメニュー検討

国道9号福知山道路地域活性化委員会では、各ゾーンが抱える課題を踏まえ、ゾーン別に地域活性化メニューの方向性について検討した。

a) ゾーン1：にぎわい創出ゾーン

にぎわい創出ゾーンは、福知山市の中心市街地を含む駅南周辺を中心としたゾーンで、福知山駅を中心とした回遊性を持たせた空間を形成するため、「周遊できる道路づくり」や「たまり空間の形成」により、歩行者、自転車、自動車、バスが回遊できる空間を形成し、にぎわい空間の創出を目指して検討を進める。

b) ゾーン2：暮らしやすさ向上ゾーン

暮らしやすさ向上ゾーンは、福知山道路が高架化される区間で、国道9号南側に住宅地や商業施設が立地し、北側には公共施設等が立地する地域で、福知山道路の高架化によって南北相互間の往来がしやすくなるゾーンである。福知山道路を介して相互に行き来しやすいまちづ

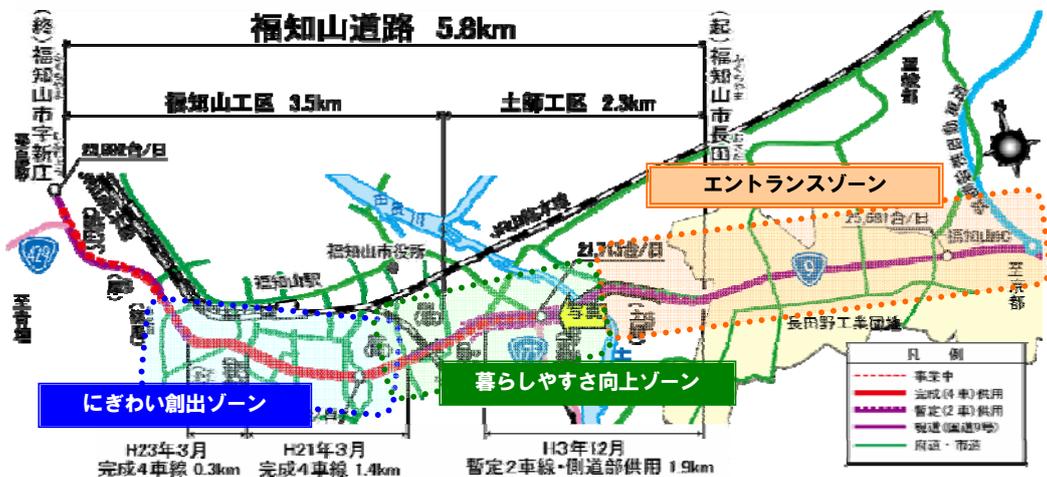


図-8 地域活性化に向けた福知山道路のゾーン分類

くりを実現するため、沿道住民が主体となり、「住宅地と商業施設、公共施設等との連携強化（南北方向）」や「周遊できる道路づくり」により、沿道住民の暮らしやすさの向上を目指して検討を進める。

c)ゾーン3：エントランスゾーン

エントランスゾーンは、福知山IC・長田野工業団地を含み、福知山市の自動車交通の玄関口にあたるゾーンである。来訪者に福知山へ来たことを印象づけた出迎えを行うための「ウェルカムゲートの設置」等の仕掛けとともに、福知山らしさを追求した情報及び景観面でのおもてなしを行うことで、「福知山の玄関口」としての機能を備えることを目指して検討を進める。



写真5 イベント実施状況

(2) 道路完成プレイベントの開催

ここで、委員会で抽出された検討事項の中で福知山河川国道事務所が取り組んだ事例を紹介する。

福知山道路地域活性化委員会では、2013年（平成25年）3月12日に卒業を控えた地元小学校の6年生を対象に道路完成プレイベントを開催した。このプレイベントは、建設工事が進む福知山道路内の福知山大橋床版コンクリートに、将来の夢や好きな絵をペンキで描いてもらったものであり、福知山河川国道事務所は、イベントの会場設営及び運営補助を行った。



写真6 イベント実施状況

【開催概要】

開催日：2013年（平成25年）3月12日

対象：悼明小学校の6年生83人

道路完成プレイベントは、6年生の「卒業記念」と「道路を大切にすることを願ってほしい」との願いも込めて開催している。卒業生達はペンキまみれになりながら、将来つきたい仕事等をそれぞれが思い思い自由に描いていた。

床版コンクリート上に描かれた絵は、アスファルト舗装が敷設されると見えなくなるが、道路の下に残り続けたところがポイントである。福知山道路を身近に感じてもらうだけでなく、利用するたびに、ここに絵を描いたことを思い出したり、大人になり、この日のことを思い出してもらうことで、地元愛を醸成してもらうとともに、地元で活躍するキーパーソンになってくれることを期待している。

このようなイベントの開催を、継続的に実施することで、地域の活性化に繋がるものと捉えている。

7. おわりに

現在、国道9号福知山道路事業は、2013年度（平成25年度）の長田野～東堀間の完成4車線供用及び2014年度（平成26年度）の東堀～岡間の完成4車線供用に向けて整備を進めている。

このように、道路整備を起爆剤として、沿線の自治体等が連携して地域の活性化を図ろうとする動きは、道路整備が交通混雑の緩和や安全な歩行空間の確保といった効果だけでなく、地域にとっても有益なことであり、道路整備による効果を広げることとなり、道路事業者として大変ありがたいことである。

他の地域でも、今後ますます道路整備をきっかけとして、より道路整備効果が地域にとって大きなものとなっていくことを期待する。